

平成 30 年 10 月 3 日

ところ会 OP-5 行事案内

新河岸川を歩く(最終)

今回は新河岸川を歩くシリーズ最終回としてとらえ、前回廻り切れなかった場所と一部追加して北朝霞から東上線の朝霞駅までのコースを設定しましたので、このコースを歩きます。歩行距離は約 5.5km となります。今回のコースは午前中に予定のコースを廻り、遅めの昼食で、昼食後仮解散を予定しています。

記

■日 時：平成 30 年 10 月 25 日 (木) 雨天順延

■集合場所：武蔵野線 新秋津駅 改札口前

■集合時間：8 時 35 分

■時間割：JR 新秋津発 8:44 乗車⇒北朝霞 8:55 着

■見学場所及び時間：

北朝霞⇒東園寺の板石塔婆⇒比留間家文書⇒湧水代官水⇒一夜塚古墳⇒
旧高橋家住宅⇒台雲寺⇒金子家の板石塔婆⇒根岸の馬頭観音⇒朝霞駅⇒昼
食を予定⇒朝霞駅・北朝霞駅・新秋津駅・秋津駅・所沢駅(15:30 頃解散)

■昼食：イタリア料理 ボン・パスト 電話 048-466-8284

〒351-0006 埼玉県朝霞市仲町 1-11-48 蕪木ビル 1F

■見学先簡単ガイド(各種ホームページから)

◆東園寺の板石塔婆

□：真言宗智山派寺院の東園寺は、松光山と号します。創建年代は不詳ですが、古来より薬師堂とその別当寺が隣にあったといい、その薬師堂が廃れたのを惜しんだ法印永慶が寛弘年間(985~1011)に再建し中興高祖となったといいます。太田道灌が当寺本尊薬師像を、城内鎮護として持ち去ったこともあったものの無事返還、徳



川家康江戸入府後には、当地の代官となった甲斐荘喜右衛門が当寺を当地へ移転したといわれます。当寺不動堂横には霊泉とされる不動の瀧があります。

□：東園寺の板石塔婆

当寺には鎌倉時代の文永 5 年(1268)に造られた板石塔婆があり有。朝霞市の指定文化財となっています。

その板石は供養塔の一種で中世から近世の始めまでよく使われていますが、容易に文字を刻印できる比較的柔らかい石材で、その為年月経過に従い文字が薄くなり判読困難である。

該当の板石(板碑とも言う)は本堂の左手の小屋にありますが、接近できないように門扉が閉ざされ施錠されており現物確認できない。



◆比留間家文書

【朝霞市指定有形文化財】

江戸時代旧岡村名主関係の文書で比留間家の所有物です

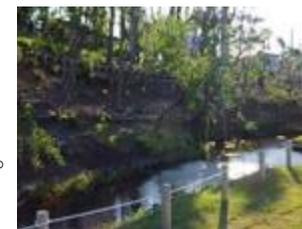


◆湧水代官水

江戸時代から灌漑用水として親しまれてきた湧水。

台地の崖線の複数箇所からきれいな水がわきだしている。朝霞市の天然記念物に指定され、歩道や案内看板などが整備されている。湧水地点への立ち入り、水のくみとりはできない。

標高 14メートルから 21メートルの崖線の谷頭から出る湧き水で、水源地のほか、数箇所から湧き出ています。これらの湧き水は、古くから灌漑用水などとして地域の人々に「代官水」と呼ばれ、利用され親しまれてきました。現在も水量は豊富であり、市内に残された貴重な自然湧水です。また、湧水には様々な水生生物が生息し、湧水が流れ出している斜面には貴重な動植物が確認されています。



◆一夜塚古墳

朝霞市立朝霞第二小学校の建設のために削平された古墳。円墳。径 50m。6 世紀前半の築造と考えられる



◆重要文化財 旧高橋家住宅

旧高橋家住宅は、江戸中期、18 世紀前半の建築と推定される、木造平屋建て・茅葺の農家建築で、平成 13 年 11 月 14 日付けで国の重要文化財に指定されています。主屋を中心に、納屋・倉・木小屋・井戸小屋・祠などの付属屋が主屋の周りに位置し、周囲には雑木林や畑が広がる、往時の武蔵野の農家の風景がしのばれる環境となっています。なお、雑木林や畑など周囲の環境も、建造物とともに武蔵野の農家景観を伝えているところから、敷地についても重要文化財に指定されています。



また、主屋については、建築当初から使われている部材に残された加工の痕跡などがあり、保存整備にあたっては、詳細に調査した結果をもとに、建築当初の姿に復原し、平成 20 年 10 月 1 日に開園しました。

□：主屋（オモヤ）

建築年代は 18 世紀前半、桁行 14m90cm(7 間半)、梁間 10m40cm(4 間)で正面を半間の吹放しの庇があり、東面北寄りに桁行 2m50cm(1 間半)、梁間 4m60cm(2 間半)の突出部を附属する。寄棟造、茅葺。

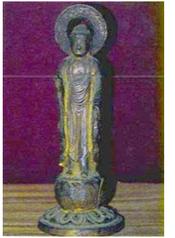
◆台雲寺・朝霞市根岸台にある真言宗智山派寺院

真言宗智山派寺院の台雲寺は、西林山養安院と号します。台雲寺の創建年代等は不詳ながら、当初は東方の堂山にあり、その後西方にあたる当所へ移転、台雲寺六世法印定政が天文年間（1532-1555）に中興したといわれます。



□：鉄造阿弥陀如来立像

この仏像は、台雲寺に伝わるもので、像高約 20cm の小像ながら、鑄造技術にはみるべきものがあり、製作年代は、鎌倉末期～室町時代初期のもので、鉄仏としては市内唯一で、県内でも非常に貴重な作品である。（朝霞市教育委員会 掲示より）



◆朝霞市根岸台板石塔婆（金子家）

不動曼荼羅と五輪塔を刻む正安 3 年銘の板碑 2 基。金子家の敷地内で見学は出来ません。



◆根岸の馬頭観音（私家版 埼玉の石仏から）

東朝霞公民館の北東、五差路の真ん中に馬頭観音堂があります。堂の中、中央には聖観音菩薩が立ち、周りに多くの石塔が並んでおり。その聖観音菩薩立像 天和 2(1682)左手に蓮のつぼみを持ち、右手は与願印。涙を流しているかのように見えます。光背右「奉造立 歸命月天使」光背左「現當二世安樂所」その下の両脇に造立年月日が刻まれています。塔の左側面に年号。その下に左 引又道とある。右側面 堂の隙間からのぞくと、こちらには大村右根岸道と刻まれていて、道標になっています。よくみると、塔の左側面に年号。その下に左 引又道。右側面 大村右根岸道・・・どうもおかしい。この二基の馬頭観音像は同じ文化 13 年の銘を持ち、全く同じ内容ではないか？それにしても状態が違いすぎる。もう一度右の馬頭観音塔を調べると裏面に昭和四十六年再建と刻まれていた。どうも本来の馬頭観音塔が風化が激しくなったためにこれを再建して奉納したということのようだ。左側には全部で六基の文字塔が縦に重ねて並べられていて、ほとんど隙間がなく刻まれた文字が見れない。先頭の塔は大正 13(1924)後の五基の塔には明治 12(1879)から大正 15(1926)の銘が刻まれている。

